

分布調査報告書

三刀屋町の遺跡 I

三刀屋・一宮地区

1988年1月

三刀屋町教育委員会

例　　言

1. 本書は三刀屋町教育委員会が、昭和62年度国庫及び県の補助を受けて実施した三刀屋町三刀屋・一宮（大字高峰を除く）地区遺跡分布調査の概要報告書である。

1. 調査の体制は次のような。

調査主体者	三刀屋町教育委員会		
	古瀬　明	(教育長)	
調査指導	ト部吉博	(島根県教育庁文化課文化財保護主事)	
	蓮岡法暉	(八雲村立八雲中学校教頭)	
調査担当者	杉原清一	(島根県文化財保護指導委員)	
調査補助員	藤原友子		
事務局	藤原寧夫	(三刀屋町教育委員会教育次長)	
	高橋良治	(タ　　次長補佐)
	太田昌人	(タ　　社会教育係長)

1. 調査成果は分布図及び一覧表とするほか、各個別調査カードを作製し、三刀屋町教育委員会に保管して活用する。なお、遺跡番号は島根県遺跡地図（1987年）記載の続き番号を付した。

1. 本書及び調査に使用した地図は、主として三刀屋町建設課所管に関わる5千分の1地形図である。

1. 収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓についてはその石塔に着目したため、移築等も考慮すると必ずしも元位置であるとは限らない。

1. 分布調査は踏査によるもので地表の表微觀察であり、埋蔵されたものがすべて網羅されているとは言えない。従って分布図上の空白地には埋蔵文化財包蔵地がないとは言い難い。

1. 調査にあたって次の方々から協力並びに情報提供を受けた。記して謝意を表します。

加藤陽一	坂本広由	重富福太郎	若槻正勝	溝部運市	古山誠治
菩徳寺	長嚴寺	妙法寺	若槻喜吉	山根大二	須山重美
山崎定芳	広沢忠藏	森山勇治	高橋重美	畠 新吉	楳原富徳
加藤秀吉	坂本春吉	森山武男	森山小文	陶山工務店	

1. 本書は調査員が担当して作成した。

1. 三刀屋町遺跡分布図—三刀屋地区・一宮地区—

2. 三刀屋・一宮地区遺跡所在地一覧表

3. 遺跡の概要—伊賀・給下・古城・三刀屋—

図の記号

- 造物散布団
- ▲ 古墳・横穴
- △ 城 藜 館
- 寺 社 跡
- ▼ 古 墓
- ▲ 生産遺跡

遺跡数集計

地 区 大 字	一 宮 地 区				三刀屋地区	合 計
	伊 賀	給 下	古 城	三 刀 屋		
城 藩	2	2	7	2	13	
古 墓	2	1	9	3	15	
寺 社 跡	—	2	3	—	5	
生産遺跡 (カジ・タタラ)	2	—	2	2	6	
古墳・横穴	—	3	2	4	9	
遺 物 散 布 地	1	2	—	1	4	
計	7	10	23	12	52	

但し複合遺跡を含む 合計48遺跡

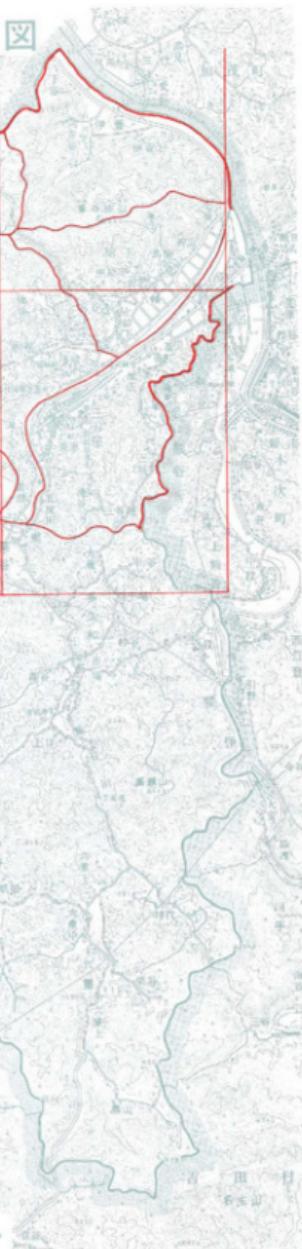
三刀屋町全図

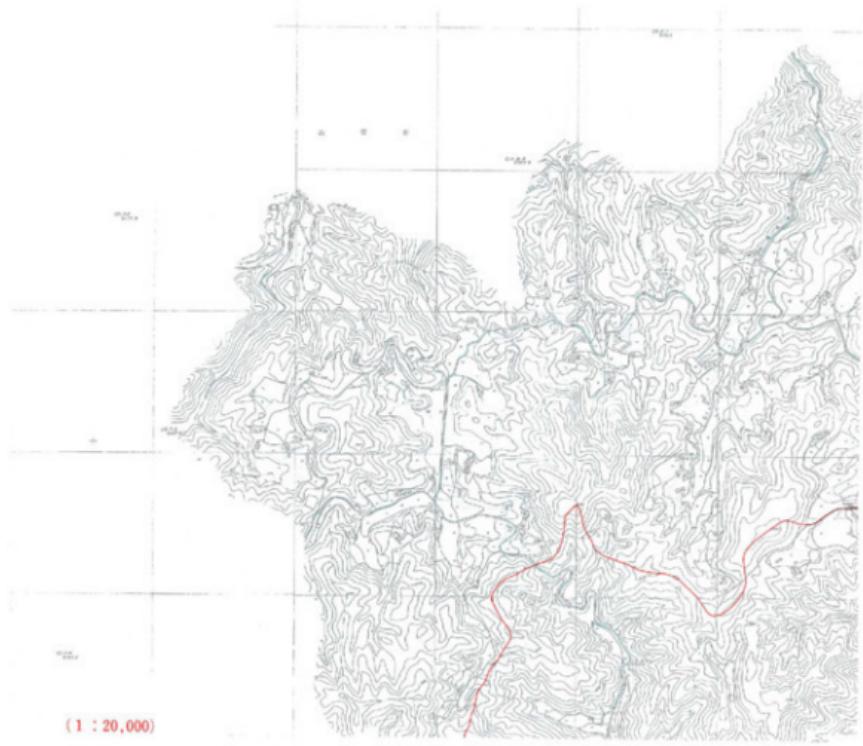


佐賀町
大日山

三刀屋町
佐賀町
大日山

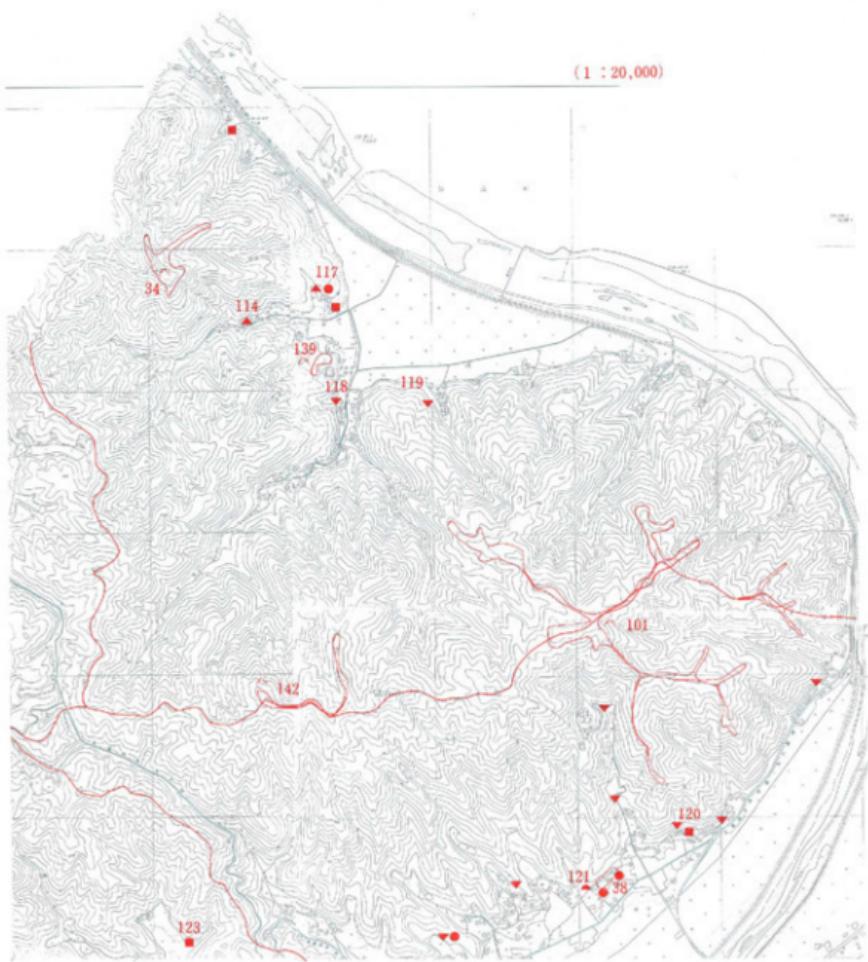
0 2000 2000 2000

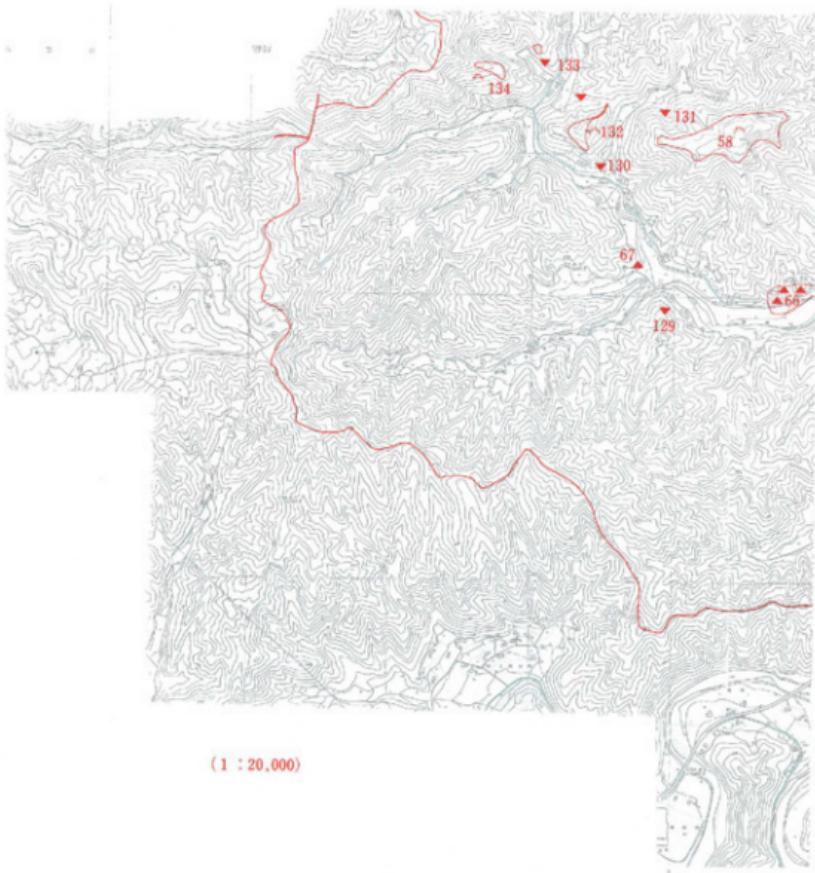


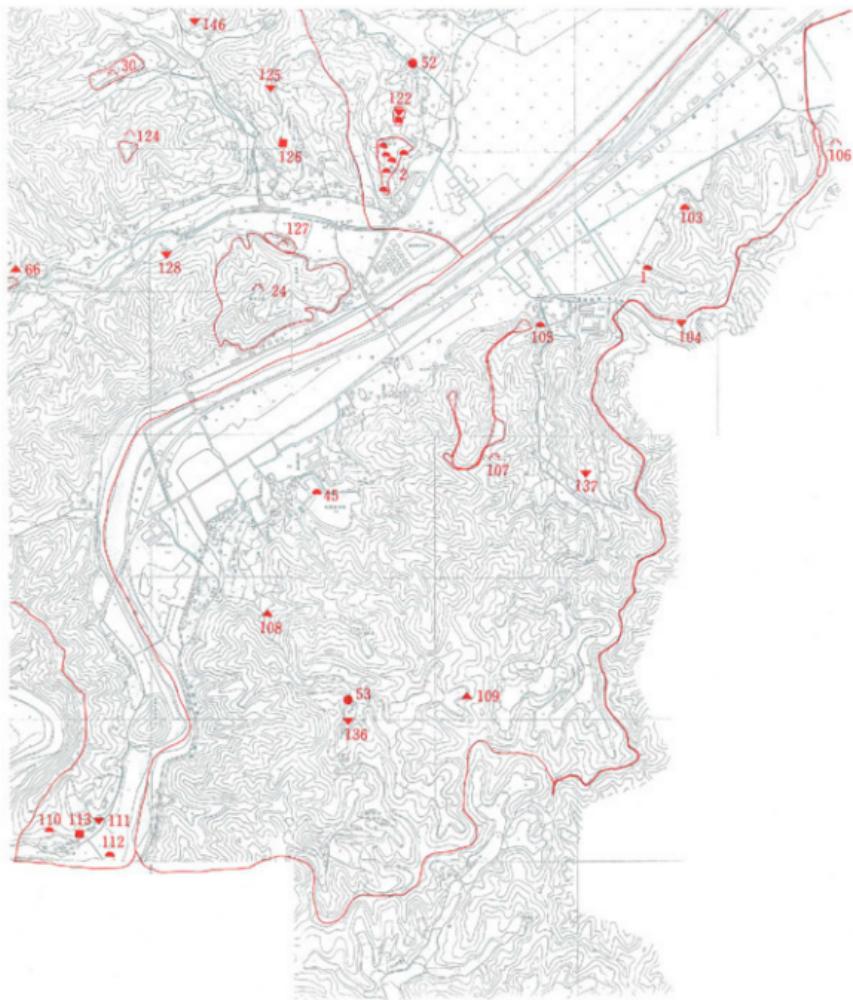


(1 : 20,000)

(1 : 20,000)







(1 : 20,000)

三刀屋・一宮地区遺跡所在地一覧表

伊 葦

番号	種 別	名 称	所 在 地	現 況	通 許 の 概 况
34	城	若伊賀城跡	三刀屋町大字伊賀967他	山 林	山頂付近削平段あり
139	。	畠ノ内城	。 895他	。	丘端部に削平段と切岸あり
118	古	蕃 瓢箪蕃古蕃	。 466	蕃 地	大型五輪塔を含む古蕃群
119	。	中屋谷古蕃	。 287	。	五輪塔基群25基分以上蕃石集積
114	生産遺跡	俵谷たら跡	。 562	畠・宅 地	宅地により半分消滅、鉄津散布
117	生産遺跡 遺物散布地	鐵治川遺跡	。 571他	宅地・山林	宅地付近に鉄溶焼石上方山腹で古陶出土

給 下

38	遺物散布地	大門口遺跡	三刀屋町大字給下 大門1329 北垣内1315	畠 地	大門。石斧出土。北垣内須恵器片散布(暫期)
52	。	宮谷遺跡	。 ?	田・畠 道	(消滅か、位置特定不能)
2	古	遺松本古墳群	。 1726他	山 林	1号墳、前方後方50m、S38発掘調査 2号墳、円・径10m未掘、頂部に人仙碑あり 3号墳、円・径10m未掘、頂部に五輪塔等あり 4号墳、小墳 S38発掘調査。横穴式石室 5号墳、円墳か径10m、五輪塔20基以上(本堂の上) 6号墳、(破損か)(梅窓院墓地)
6	横穴	一宮横穴群	。 ?	?	(桑園造成により消滅か、位置特定不能)
121	。	坂中横穴	。 1332	山 林	岸面に2穴在ったが、ほとんど消滅
101	城	皆峯寺山要害群	。 1505他	山 林	I～V群より成る尾根上に連なる群郭、拠点は峯寺 I群一峯寺上最頂部削平段約300m II群一中瀬谷上の尾根に削平段約250m III群一三田原上の尾根に削平段約400m IV群一底ノ谷北尾根上に削平段約300m V群一蛇ノ谷南尾根上に削平段約500m
142	。	笠谷上堺・古道	。 ?	山 林	峯寺・じや山間の尾根路とその間の物見郭
120	寺社跡	若宮跡	。 1570他	畠	地名伝承の社地。付近に古墓散在
122	古寺	給下の殿様墓跡 と同安寺跡	。 785 ? 779	畠	寺跡と隣接の大型宝篋印塔群

古 城

110	古	墳	宮上ミ荒神塚古墳	三刀屋町大字古城1443	山 林	円頂径10m未掘、荒神木に祝奉納
112	。	椎平荒神遺跡	。 1379 ?	田	元石積荒神、圓場で消滅、須恵器多	
24	城	野三刀屋尾崎城跡	。 1165他	畠・山 林	三刀屋氏挺城、400×500m。県史詩	
30	。	丸塚數城跡	。 383他	畠地・山林	館後背城壁、40×80m。調査部氏	
58	。	三刀屋じや山城跡	。 1791他	山 林	袖峰頂部1ha敷地切岸天水池等青垣中量防	
124	。	中 山 城	。 1882他	。	筍島の物見郭	

132	城 番	大 谷 岩	三刀屋町大字古墳		社	地	丘陵の物見堀約100m
134	・	鐘 推 堂 番		・	山 林	山田上尾根に削平段4段あり。見張塔か	
127	館 推定地	御藏前館推定地		・	1113 宅 地	城山南麓、鉢足か。地中に石垣が残っているとの事	
113	寺 社	舞 成木八幡宮跡		・	1367 山 林	明治末年まで在った八幡宮跡地。50×80m	
123	・	梅 窓 駒 旧 鋸 (門所古墓)		・	1976 山 林・他	寺跡は概に耕地化している。山稟に小段あり、墓地か	
126	・	古 城 八幡宮跡		・	2031 山 林	八幡宮跡伝承地。付近に古墓あり 30×100m	
111	古 墓	成木宮前石塚		・	1354 田 地	水田中の石積塚、鐵刀片出土の伝承あり。1×1m	
125	・	久円寺上古墓		・	120 墓 地	石垣基壇2×11m、五輪塔、宝鏡印塔、無縫塔等	
128	・	北 佐 連 古 墓		・	1082 畑 地	畠地に石積塚が点在。采安寺跡推定地の裏地帯	
129	・	尾崎神子ヶ谷古墓		・	1002 畑 地	石積易が点在。二刀屋跡りの塚であるとの伝承あり	
130	・	枝 の 前 古 墓		・	671 雜	五輪塔片8基以上が集積	
131	・	石 曲 り 奥 古 墓		・	1795 山 林	集石塚や祭祀跡?も、銅鏡(洪武通宝)や刀片出土	
133	・	面 田 上 古 墓		・	797 ? 墓 地	五輪塔片あり	
146	・	堂 床 古 墓		・	1986 ? 山 林	石を並べた基壇あり、梵字を刻む宝鏡印塔片あり	
66	生 産 通 路	金 保 部		・	559 墓 地	農道、耕地等の整備に際し鉄津出土。付近にカジ節の墓と伝える古墓(五輪塔)あり。地名「金保」	
67	・	鉢 谷 鉢		・	557 畑 地・他		
				・	933 田・他	かつて鉄津が出土。現在は道敷及び耕地化している	

三 刀 屋

53	遺物散布地	淹 谷 造 路	二刀屋町大字三刀屋700 他		山 林	山崩れ災害で出上、石斧、土器片等
45	古 墓	宮 垣 古 墓		・	宇井ノ谷1611 雜	円墳直径約10m 前方斜が損壊。かつて付近にもあったとの事
1	横	六 要 廉 横 穴 群		・	1245 他 山 林	巣崩れに際し須恵器出土。造焼未確認。消滅、須恵器蓋、勾玉
103	・	要 廉 宅 裏 横 穴		・	1253 宅 地	宅地裏裏面に1穴残存。付近にもかつてあった。須恵器等Ⅱ期
105	・	地 王 横 穴		・	1316 雜	巣崩れで須恵器出土。通精未確認。消滅、罐壺、环状器Ⅱ期
106	城 壁	要 廉 壁	三刀屋町大字下熊谷 ?		山 林	数段の削平部あり。先端部は土砂採掘で損壊
107		三 谷 畜 群 I	三刀屋町大字三刀屋1571 他		山 林	字地王から字三谷、蛇ノ谷へかけてI～Ⅲ群の小削平群が尾根上に連なる。全長800m
		II	・	・	1579 他	
		III	・	・	1574	
104	古 墓	要 廉 の 首 塚		・	1282 雜	稜線上の削り出し三角形マウンド。地王峰の戦いの光者の首塚と伝う
136	・	淹 谷 古 墓		・	702 山 林	宅地裏～山裾に埋没していた五輪塔、宝鏡印塔片の集積
137	・	三 谷 古 墓		・	1350 畑 地	複数低地、湖沼に隣接。五輪塔をまとめ埋納したとのこと
108	生 産 通 路	養原鋤谷たらら		・	1636 他	地名鋤谷、小谷入口付近鉄津散布地。現在埋めたてて煙地。50×70m
109	・	淹谷鋤山たらら跡		・	764 田	谷奥深い支谷部、鉄津散布ありとの事。現況荒廃水田

遺跡の概要

三刀屋町は島根県出雲部のほぼ中央部に位置する斐伊川支流三刀屋川沿いの区域で、古くから陰陽の交通の要衝であり、町を縱断して国道54号線が走っている。町内での遺跡は縄文時代から認められるなどその歴史は古い。

町名である「ミトヤ」の初見は『出雲國風土記』の「三星郷」であり、中世以降「三刀屋」となる。中世には雲南地方の霸者三刀屋氏（もと諏訪部氏）の拠点であり、江戸時代は松江藩に属した。昭和16年一宮村と合併した三刀屋町は、昭和29年さらに飯石村・中野村・鍋山村と合併して、現行の町域となった。

本年度の調査区域は、三刀屋・一宮（大字高畠を除く）を対象とした。この区域には県指定史跡松本1号古墳・尾崎城跡・じや山城跡など著名な遺跡もあり、三刀屋町のほぼ中心的な地域である。

調査は全域の字地名を参照しながら、地元の人々からの情報と協力も得て、全域を限無く踏査して地表面上の表微を探査した。

1. 伊 葦

遺跡は寺谷・下谷の集落を中心とする山麓部と、出雲市境や大字給下との境などの山塊稜線上とに分布していた。

集落前方の水田地帯は、かつての斐伊川氾濫原であり遺跡は見当らなかった。

集落のほぼ中心に長蔵寺があるが、もとの寺はその下方にあったもので、その南側の山麓には帶状に醍醐墓古墓群（板118）がある。後醍醐帝后の伝説のある大型の五輪塔はしかし、その製作からして時代が下るものであろう。下谷にはたら鉄のあと（板114）があり、古陶が出土した鍛冶屋遺跡は祭祀跡であろうか。

出雲市境にある字城山の山頂部は伊達城跡（板34）であり、約300mにわたる数段の簡易な削平段の柴跡である。また大字給下との境の山々は、その各尾根上に削平地が連なる峯守山要塞群（板101）であり大字給下と大字伊達にわたりⅠ～Ⅴ群から成っている。

2. 納 下

給下地区では古刹峯寺があり、間連するとみられる古墓が点在し、後背山陵には上記のように塔群が配されている。

南の大字古城近くには雲南地方で主要な松本古墳群（板2）があり、1～6号の群を成している。前方後方の1号墳以外はすべて円墳のようである。この松本古墳群の下には

同安寺跡があり、殿様墓（編122）と呼ぶ龜入りの大型宝篋印塔群は著名である。

このほか横穴が坂中（編121）にあったが消滅した。付近には未発見のものがあるのかも知れない。また大門II（編38）にはかつて石斧が採取され、今日では須恵器の散布する畠地が認められる。

三屋神社付近にはかつて土器の散布（編52）が認められたとのことであるが、今日の水田・畠地では確認できなかった。このように地区の南と北とが主な分布地のようであるが、中間位置でも今後発見される可能性がある。

3. 古 城

地区名からも想像されるように、中世城跡とそれに関与するとみられる古墓・寺跡等が極めて多い。

城跡等では、県指定となったじゃ山城跡（編58）、尾崎城跡（編24）のほか、元屋敷城跡（編30）、中山砦（編124）、大谷砦（編132）、鐘撞堂砦（編134）などがある。尾崎の御藏前（編127）の宅地あたりは館跡に比定され、杣把垣あたりは栄安寺跡とみられ石積の古墓群（編128）がある。後谷字北屋敷付近では、三刀屋氏ゆかりとされる梅窓院の元地や古墓（編123・146）が点在する。このほかじゃ山城跡の麓にあたる前谷や後谷には古墓が多く、石塔ではなく石積の「塚墓」、多く認められる。

前谷や大谷の字金屏（編66）や字鉢谷（編67）には製鉄の痕跡があり、かつて水田等の整備に際し鉄滓が確認されているが遺構は明確でない。特に金屏の場合は200m以上にわたる範囲であり、その中には三刀屋氏の刀鍛冶の場との伝承もあるなど、中世ごろの遺跡かとも思われる。

南東の端にあたる三刀屋川に沿った成木地内では、近年の圃場整備で多量の須恵器が一括出土した棒平荒神道跡（編112）は古墳であったのか。この近くである成木上ミの緩やかな山腹には神木を祀る円墳（編110）がある。またこのあたり一帯は、かつて散発的に土器片や黒曜石片などが地表で採取されているようだが、近年の圃場整備工事により大きく地形が変わり、地点や範囲が特定できない。

4. 三 刀 屋

下熊谷の最端部木次町境にあたる字要害の尾根上には数段の削平された郭がある（編106）。

地王峠に近い稜線上には、三刀屋合戦縁りと伝わる「首塚」（編104）と呼ぶマウンドがある。これら字要害の東隣接は本次町の字段原で、奈良時代の草団の跡に比定されている。

地王から三谷へかけて稜線上に削平段が点列し、三谷砦（編107）が構成され、三谷地内

には古墳が散在する。いずれも中世の三刀屋氏に関連するものとみられる。

三刀屋高校の上尾根端には宮垣古墳（石45）があり、野球場造成の際にも遺物や石材等が出土したと伝えられていることから、古墳群であったと考えられる。また字地王・字要害の山腹下方近くには横穴（石105・1・103）があったが、一部を除いて消滅した。出土土器は保存されており古墳時代末期ごろである。各々その付近には未だ残存している可能性もある。

萱原の字たら谷（石108）や淹谷の字横山（石109）には鉄滓があったとのことであるが、現在は埋没して畑や水田になっている。なおたら谷関係の品として、鉄滓や銚鉄流しがけの燐台が保存されている。

調査報告書

発行 昭和63年1月31日

三刀屋町の遺跡 I

三刀屋町教育委員会

—三刀屋・一宮地区—

版石郡三刀屋町三刀屋

印刷 (有)木次印刷

版石郡三刀屋町三刀屋

